５年生のバスケットボール

１、はじめに

　数年前に研究部でバスケットボール研究をしていたこともあって、実技例会や組合の学習会に講師として行く機会を多くいただいています。そこでいつも言われることが「そんなに時間がとれない」ということです。同志会実践は少なくても１５時間はかけて行うのが当たり前になっています（？）。官制の研究会では６～７時間の単元計画が当たり前になっています。同志会実践を広めたりより理解してもらったりするためになんとか数時間で実践ができないものかと考えて今回の実践に取り組んでみました。

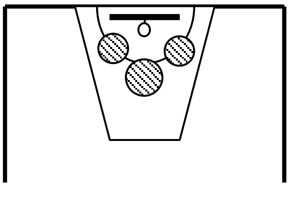
２、実践のねらいや条件

　一般的なバスケット実践と同様に「オールコート」でどこまで、何を教えられるかをねらって実践に取り組みました。条件は、５年生（３５人）です。体育館でも運動場でも２コート（４つのゴール）使えました。

３、実践の経過（教室の時間はぬいています。２～３時間とっています。）

時数	日にち	学習内容	教える中身
①	１２／１０	・学習の進め方・シュート調べ①	・重要空間をわかる。
②	１２／１１	・シュート調べ② ・グループシュート競争	・重要空間の確認 ・シュートの打ち方をわかる。
③	１２／１２	・シュート位置調査のゲーム ・ゲームでのシュート位置調べ	・ゲームの中で重要空間の重要性をわかる。
④	１２／１３	・ルールの確認 ・シュートゾーン入りこむ	・ルールについてわかる。 ・重要空間に入りこんでシュートすることができる。
⑤	１２／１８	・２：０の練習（辻上作戦） ・シュートゾーン入りこむ	・重要空間に入りこんでシュートを打つための練習についてわかる。
⑥	１２／１９	・２：０の練習（辻上作戦） ・シュートゾーン入りこむ	・重要空間に入りこんでシュートを打つための練習についてわかる。
⑦	１２／２０	・空いているシュートゾーンでシュートを打つ。	・重要空間と最重要空間についてわかる。動きなおしができる。

４、実践の実際



①基礎練習の仕方や準備の仕方を説明した後、シュート調査を行いました。入った場所に○、入らなかった場所に×をノートにつけました。正面からしか打たないグループも多くて、思った結果はでませんでしたが、「遠くからのシュートは入りにくい事」「ゴールの真下も入りにくいこと」などを確かめました。

②上の図のような場所がシュートゾーンとして、シュートが入りやすい場所であることを確かめた後、シュートの打ち方を研究しました。正面からとななめからに分けて考えました。「弱く打つ」「黒い部分にあてる」「手をのばす」などの意見が出てきました。その打ち方のコツを使ってグループで３０秒シュートに挑戦しました。シュートゾーンのどこか一か所から連続でシュートを打っていきます。グループによっては２～３回というところもありました、最後には

１０回前後まで上手になりました。

	成功数／シュート数	成功率
シュートゾーンからのシュート	９／３５	２６％
シュートゾーン以外からのシュート	４／２６	１５％

③シュートゾーンでシュートが入りやすいかどうかをゲームでも試すための時間です。ゲームでシュートを打って入ったところには「〇さ」のように書き込みます。入らなかったら「×お」など名まえも分かるように記録しました。クラス全体でシュートゾーンから打った方が入りやすい事を確かめました。

④前時ははじめてのゲームでルールを理解していない人も多かったので教師から確かめていきました。シュート練習のあと、ゲームをしました。ゲームではシュートゾーンからとシュートゾーン以外からのシュート調べをしました。

	成功数／シュート数	成功率
前回のゲーム	１６／７６	２１％
今回のゲーム	１８／６７	２７％

⑤前時のゲームから辻上くんがシュートをノーマークで打った場面をとりあげ、このプレーをしたらみんながシュートを決められる作戦として「辻上作戦（写真)」と名付けて練習をしました（２：０の練習)。そして行った結果が右の表です。シュートの成功率が上がっていることを確かめました。これはシュートゾーンに入りこむことを意識して、できてきたからだと考えられます。実際の数字もそうなっていました。

⑥「シュートゾーンに入りこめない」という感想をかいてきている子どもがいたので、シュートゾーンに入りこんだ回数も記録していきました。このおかげでさらにシュートゾーンに入ろうという意識が高まりました。

⑦「シュートゾーンに入っているのにパスが出てこない」という感想が出されました。そこで「相手のいないシュートゾーンに立っとくといい」という感想もあったので、空いているシュートゾーンに立つことを「遠田作戦」としてさらに最重要空間の意識を持たせました。

５、まとめとして

　時間数が少ない中、重要空間を意識して入りこもうとしたことで、苦手な子どもも意欲的にシュートをねらいに行けたように思います。全員シュート成功までいけなかったのですが、シュートに対する意識はほぼ全員持てていたように感じています。シュートも決められるか不安だった２班も守りが上手くない状態であればシュートが決められることも分かりました（写真)。どうしても時間が少ない分、習熟という面では弱いので、もっと高い成功率になればと思いますが、試合中で３０～４０％前後まで高められたことはシュートゾーンへの意識が高まったことが理由の一つに挙げられます。

　守りが上手になってくるとシュートゾーンでノーマークにならないようになります。この学習ができるのはこのあとで、１０時間前後の時間が必要になってくるでしょう。そして守りがハリーバックの意識を持ち始めるのが１０時間を超えての学習になりそうです。ということでやっぱり１５時間くらいが必要だと言う結論になってしまいます。しかし、数時間でも重要空間の意識、シュートへの意識を認識させることはできたように思います。